

県内大型建設プロジェクト

～民間設備投資が増加～

はじめに

熊本地震から6年5ヵ月が経過し、大型の公共投資は震災からの創造的復興関連より、令和2年7月豪雨からの復旧・復興に関連するものへ変わってきている。一方で、民間投資の面では、TSMCの菊陽町進出（2021年11月公表）が国家的な大型プロジェクトとして大きな注目を集め、関連する投資案件が相次ぐ契機となった（本号p.8～参照）。

本稿では、県内で進む大型プロジェクトについて紹介する。

1 民間企業の設備投資

(1) 半導体関連企業を中心とした設備投資

県内の設備投資はTSMCの進出決定が大きな転機となっており、そのサプライチェーンとなる原材料や資材の納入、生産設備のメンテナンス関連などを担う県外企業が相次いで進出している。加えて、県内企業においても投資拡大を図る動きも同様に増加している。明らかになった投資総額は概算でも500億円を大きく超えるとみられており（図表1）、各社ではTSMCの生産開始（2024年末予定）に対応するべく、急ピッチで整備が進められている。

図表1 主な半導体関連企業の設備投資（JASMの工場建設を除く）

事業者 (本社所在地)		設置 場所	投資見込額 (円)	完成見込	内容（未確定情報等も含む）	
製造 機器	(株) くまさんメディクス (熊本)	菊池市	13億	2022/6	菊池工場に洗浄装置を生産する新棟を建設。	
		大津町	10億	2022/8	東京エレクトロン九州向けに製造 半導体製造装置の製造・メンテナンス。塗布現像装置を生産する「平川工場」を建設。	
資材・ 部品	サンユー工業(株) (東京)	高森町	非公表	2022/7	「高森事業所」新設。電気信号を切り替える「リードリレー」(世界シェアの2割)を製造。県内製造拠点は熊本事業所(大津町)に次ぎ2カ所目。	
	オジックテクノロジーズ (熊本)	合志市	3億	2022/8	合志事業所に半導体製造装置部品向けのアルミニウム処理ラインを増設。処理能力は従来から倍増。鍍金処理に高い技術を持つ。	
製造 機器	(株) 堀場エステック (京都)	西原村	非公表	2022/8	半導体製造装置向けのガス液体流量制御機器で世界シェア6割。阿蘇工場の製造設備を増強。既にTSMCも製品を使用。	
関連 サービス	(株) アスカインデックス (東京)	水俣市	非公表	2022/9	半導体関連の中古装置売買、電子デバイス試作の受託・代行サービス等。同社高度技術センター(水俣市)内に半導体製造プロセスを一貫して教育する研修センターを併設。2022/9から受入開始。	
装置 保守 サービス	(株) SCREEN SPEサー ビス(京都)	益城町	5億	2022/10	熊本工リアでの事業拡大に伴う最先端機器のトレーニングセンターを含む新棟建設。半導体製造装置の保守サービスを行う。SCREENグループ。	
資材・ 部品	(株) ケイ・エム・ケイ (熊本)	宇城市	非公表	2022/11	宇城工場に第2工場(延床面積約2,350㎡)を増設。半導体製造装置向けの高難度の金型・部品を5軸加工機等で製造。	
製造 機器	ローツエ(株) (広島)	合志市	3億	2022/12	主にウエハ搬送システムを製造する九州工場の生産能力をこれまでの2倍に設備増強。既存倉庫をクリーンルームに整備(約1,130㎡)。	
	(株) テラプローブ (神奈川)	芦北町	20億	2022/12	半導体製品の検査大手。九州事業所内に高性能の検査機器を導入し、検査能力を5～10%高める。	
	応用電機(株) (京都)	菊池市	非公表	2023/2	熊本工場に8棟目の新工場を増設(機器組立て向け・総2階建・延床面積2,871㎡・1階にクリーンルーム)。半導体検査装置、開発製品を生産。	
	(株) 藤興機 (熊本)	八代市	7億	2023/3	新本社工場を新設。現本社工場を機械加工工場として2工場体制にて生産し、関連機械設備を拡充。半導体製造装置向けプラスチック部品等の切削・組立を行う。今後5年間で生産量を倍増させる計画。	
資材・ 部品	富士ダイス(株) (東京)	南関町	18億	2023/3	産業用工具・金型製造販売。熊本製造所内に合金素材をつくるための冶金棟(平屋床面積約2,000㎡)を施設更新で新設。EV用モーター・バッテリー向けの需要増に対応。同製造所は自動車部品の金型のほか、半導体関連の金型や素材も製造。	
	第一電材エレクトロニクス (株)(秋田)	山鹿市	5億	2023/7	山鹿市での工場新設。電線、ケーブル専門商社の第一電材(東京)の子会社。九州初進出。	

事業者 (本社所在地)		設置 場所	投資見込額 (円)	完成見込	内容 (未確定情報等も含む)
向け社員	(一社) 熊本インターナショナルスクール (熊本)	熊本市東区	非公表	2024/春	インターナショナルスクール (現在は小学生対象)。用地約0.3haを取得し、熊本市東区に小中高向け新校舎を建設。
製造機器	荻原製作所 (株) (東京)	南関町	非公表	2024/6	熊本事業所内に3棟目となる半導体製造装置生産の新工場延床面積約14,500㎡ (2016年の2棟目は約12,000㎡約68億円) を建設。生産能力を従来比1.5倍以上に拡大。
資材・部品	(株) フェローテックマテリアルテクノロジー (東京)	大津町	47.5億	2024/6	半導体関連材料部品を製造するフェローテックグループの国内事業会社。新工場「熊本事業所」(仮称) を設立。
	東京応化工業 (株) (神奈川)	菊池市	17億 + 数十億	2024年中	県営工業団地「菊池テクノパーク」に用地約12.9haを約17億円で取得、新工場を約数十億円 (非公表) で建設。ウエハ基板への回路形成用の感光性樹脂 (フォトレジスト: シェアは世界トップ) や高純度化学薬品などを製造販売。国内工場は阿蘇市を含め6カ所。
製造機器	東京エレクトロン九州 (株) (合志市)	合志市	300億	2024/秋	工場内に研究開発棟を新設。3階建て (一部4階・延床面積約24,200㎡)。ウエハに感光剤を塗布・現像するコータ・デベロッパ (世界シェアトップ) や洗浄装置等を開発。
	カンケンテクノ (株) (京都)	玉名市	15.4億	2023/8	半導体製造過程で発生する排ガスの回収処理装置などを製造。閉校した旧梅林小跡地を約4千万円で取得、国内4カ所目の工場を15億円で新設。
	ジャパンマテリアル (株) (三重)	大津町	12億	非公表	土地 (約6.65ha) と2階建ての工場3棟 (延床面積約12,000㎡) を約12億円で取得。具体的な事業内容や規模は未定。半導体の製造工程で使う特殊ガスなどの供給管理サービス。熊本初進出。
	平田機工 (株) (熊本)	熊本市	110億	2022~2024年	主力のEV関連や半導体関連の諸事業に加え、新たに生物遺伝資源ビジネスに進出、2023年頃に研究開発ラボを本格稼働予定。同研究開発向け40億円のほか、生産・開発能力増設に60億円、情報システム関連に10億円の設備投資を中期計画で策定。

資料: 各社HP等の公表資料より当研究所作成

(2) 熊本市中心部で相次ぐホテル建設や進出

熊本市中心部では、建設中であった数多くのホテルが本年から2023年にかけて相次いで開業し、また開業予定となっている (図表2)。新規に供給される部屋数は1千室程度とみられ、市内のホテル・旅館の客室数 (10,342室) の約1割弱に相当する。2019年9月に再開発で生まれ変わった大型商業施設「SAKURA MACHI Kumamoto (旧熊本交通センター)」内に設置されたMICE施設「熊本城ホール」を活用した国際会議や学会、展示会といったビジネスイベントや、コロナによる入国制限の緩和などによる旅行者の宿泊需要の拡大が期待される。

図表2 主な県内へのホテル建設や進出

地域	ホテル名	設置場所・特色	部屋数	開業時期
熊本市中心部	ダイワロイネットホテル 熊本銀座通り	銀座通り沿いのカラオケ店等の歓楽街跡地に進出。大和ハウスグループによる中心市街地2カ所目。	180室	2022/2
	スーパーホテル 熊本駅前天然温泉	JR熊本駅前に立地。激戦区である中心市街地を避けて2カ所目を開業。	100室	2022/2
	ホテル日航熊本	通町電車通り沿い。開業20年を迎え全191室のうち187室を改装。「熊本らしさ」や「和」をコンセプトに室内装飾や家具を一新。投資額5億円。	187室	2022/4
	KOKO HOTEL Premier 熊本	SAKURA MACHI Kumamoto内の「ホテルトラスティー」(リゾートトラスト (名古屋市) が運営) から、スターアジアグループ傘下のボラリス・ホールディングス (東京) が営業を引継ぐ。	205室	2022/6
	カンデオホテルズ 熊本新市街	新市街アーケードに面し、県内3カ所目。最上階の展望露天風呂・サウナ等で中心部の既存施設と差別化、シティホテルとビジネスホテルの中間クラスの品質を掲げる。	380室	2022/7
	OMO5 (おもふあいぶ) 熊本 by星野リゾート	旧熊本バルコ跡 (手取本町) に星野リゾート (長野県) がデザイン重視のフティックホテル型を開業。九州初の都市ホテル形態。「下通GATEプロジェクトビル」の3~11階。	160室	2023/春
	相鉄グランドフレッサ 熊本新市街 (仮称)	ワシントン通り沿い。(株) 相鉄ホテルマネジメント (神奈川県) が宿泊特化型ホテルのブランドとしては九州初出店。	247室	2023/初め
天草	天草 天ノ寂 (あまのじゃく) (上天草市)	(有) 竜宮が松島町前島地区で営業する「ホテル竜宮」の隣に、主に富裕層や年配層向けの高級ホテルを新設 (6階建・延床約2,690㎡)。すべて洋室で上質で落ち着いた装飾。投資額は約12~13億円。	11室	2023/3
	天草リゾート (上天草市)	松島町樋合島に結婚式場運営のマリーゴールドホールディングス (熊本市) が開発。豊かな自然や眺望に溢れる完全個室ヴィラ風ホテル等を備えるリゾート施設。1期計画の事業費16億円。(2期計画15室)	16室 (棟)	2024/春

資料: 各社HP等の公表資料より当研究所作成

2 その他のプロジェクト

県内では、本県や熊本都市圏が九州の中心に位置するという地理的優位性を最大限に発揮することを念頭に、多くの道路建設が進められている。それと共に、県内各地域と都市部との連結、また県外との交通アクセスの改善を図るための道路網整備も進められている（図表3）。

こうした社会インフラの整備は、TSMC進出による産業と生活の両面の課題解決や、観光地としての魅力を更に高める効果が期待される。

図表3 主な県内の社会インフラの整備等

プロジェクト名	投資額（円）	完成予定時期	事業概要、課題など
広域道路			
熊本環状道路			
植木バイパス	総事業費 290億	2022年度	熊本西環状道路～国道3号（延長0.9km）の区間において、主要な構造物である下硯川橋（仮称）の下部工事が完了。2022年度の開通予定。
熊本北バイパス	総事業費 約804億	2022年度	植木バイパス同様に、下硯川橋（仮称）の下部工事の完了に伴い、国道3号～須屋高架橋交差点（延長1.8km）の区間が2022年度の開通予定。
熊本西環状道路	区間事業費 約222億	2025年度 （花園～池上）	熊本市北区下硯川町～南区砂原町間の約12kmを結び自動車専用道。整備区間（北区下硯川町～西区池上町間の約9km・総事業費約450億円）のうち、花園IC～池上IC間（約4.6km）の2025年度開通を目指す。なお北側の下硯川IC～花園IC間（約4.1km・事業費228億円）は2017年3月に暫定2車線で開通済み。（また、2022年度新規事業に砂原IC～池上IC（約3.8km・2031年開通見込み・概算事業費約340億円）が追加。）
中九州横断道路のうち 大津熊本道路	熊本市～大分市を結ぶルートで整備中の高規格道路（約120km）の一部となる大津熊本道路（約14km・片側2車線の自動車専用道路）は、熊本市北区～合志市～大津町を結ぶ。2020年10月開通済の国道57号北側復旧ルートは中九州横断道路の一部と位置付けられる。		
合志～熊本	総事業費 約530億	2020年度 事業化着手済 （開通時期未定）	合志市上庄～熊本市北区大鳥居町の区間（9.1km）。中九州横断道路で県内初の事業化区間。
大津西～合志	総事業費 約310億	2022年度予算 新規事業化着手 （開通時期未定）	大津熊本道路のうち、大津町杉水～合志市上庄の区間（4.7km）。2022年予算で新規事業化に着手、調査設計費0.5億を計上。
九州中央自動車道			
嘉島JCT～矢部IC	事業化済分 806億 （2018年4月 時点）	2023年度 （山都中島西IC ～矢部IC）	嘉島町と宮崎県延岡市を結び全長約95kmの高規格道路のうち、事業化済の嘉島JCT～矢部IC分。県内計画約44kmのうち嘉島JCT～山都中島西IC（約12.6km）は2018年12月開通済み。山都中島西IC～矢部IC（約10.4km）については2023年度に開通予定。
矢部清和道路 （矢部IC～清和間）	初年度分 1億	2022年度予算 新規事業化着手 （開通時期未定）	上記に加え、矢部IC～清和間（山都町城平～同町大平・約10.3km）において、2022年予算で新規事業化に着手。
熊本天草幹線道路 （うち本渡道路の 第2天草瀬戸大橋）	事業費 203億	2022年度 （本渡道路として）	熊本市と天草市を90分で結ぶ全長約70kmの幹線道路のうち、県が整備する本渡道路（約1.3km・2022年度開通予定）の一部。熊本天草幹線道路は、松島有料道路（約3.3km）、松島有明道路（約10km）、三角大矢野道路（約3.7km）を共用済み。残る区間のうち、大矢野道路（約3.4km）については県が、宇土道路（約6.7km）熊本宇土道路（約3.8km）、宇土三角道路（約13.5km・全体事業費約750億円・開通時期未定）については国が整備を進めている。
熊本県新広域道路交通計画（2021年6月）にて新規に追加			
熊本都市圏北連絡道路	-	-	熊本市中心部から高速道路ICまでを約10分で結ぶ循環型ネットワーク、熊本空港までを約20分で結び定時性・速達性を兼ね備えた道路ネットワークを構築。
熊本都市圏南連絡道路			
熊本空港連絡道路			
八代・天草シーライン	-	-	八代外港～上天草市松島町（約8.8km）を繋ぐ海上道路。大きく迂回する必要があった同区間が約10分で移動可能。
阿蘇山都道路	-	-	阿蘇山都町、宮崎県高千穂町をそれぞれ結ぶ。広域観光周遊ネットワークの構築、および災害時における交通経路の拡張が期待される。
阿蘇高千穂道路			
有明海沿岸連絡道路	-	-	有明海の北・東側で、熊本県、福岡県および佐賀県の3県に跨る地域高規格道路。福岡県大牟田市三池港ICと荒尾市を結び連絡路が本年度着工予定。熊本方面への延伸としては初となる。
構想路線			

プロジェクト名		投資額 (円)	完成予定時期	事業概要、課題など	
熊本県道路整備計画 (「半導体産業集積強化推進本部 会議」第3回会合による)		—	2022年度中 概略設計着手	TSMC菊陽町進出に関連し、新工場の南側の県道大津植木線(片側1車線)を、大津町の国道325号交差点から熊本市方面に向けて東西約2.8kmの区間を片側2車線に拡張。周辺の交通渋滞緩和や利便性向上が目的。	
		—	2023年度 事業化	中九州横断道路に接続するアクセス道路の新設。国が整備する同道路の合志インターチェンジ(仮称)から、上記新工場近くの県道大津西合志線付近までを結び南北約3~4kmを整備。一部は既存の県道や市町道を活用。	
		—	2024年以降 完成見込み	合志市須屋の国道387号でも拡幅や交差点改良を検討。	
都市計画道路(菊陽空港線) 改良工事	5.9億	2022年度予算	菊陽空港線をJR豊肥線と立体交差させる改良工事。		
施設関係					
災害復旧	熊本地震	県央広域本部・防災センター合築庁舎(仮称)	総事業費 108.9億	2022年度	熊本地震時の課題を踏まえて、県庁行政棟新館北側に建設。地上7階、地下1階、延床面積約9740㎡。
		阿蘇くまもと空港 旅客ターミナルビル	約183億	2023年3月	国内線、国際線を一体化した新旅客ターミナルビルを新築。4階建て延床面積3万7500㎡。保安検査を終えた利用客向けの「滞在型ゲートラウンジ」などを設ける。
		南阿蘇鉄道	震災復旧費 約70億 +4.2億	2023年夏	熊本地震で被災し、全線で不通となっていた南阿蘇鉄道は2023年末に全線開通を予定。震災復旧費を国が97.5%支援、JRとの相互乗入れ整備費約4億2000万円を県が支援。
		旧東海大学 阿蘇キャンパス	約15億	2023年夏	キャンパスとしての利用から、県が熊本地震の体験・展示の中核拠点として「震災ミュージアム」を整備。体験・展示施設は木造一部鉄骨造り平屋、延床面積約1,200㎡。展示内容は「地震の被害」「メカニズム」「復興」の三つのテーマで構成。
令和2年7月豪雨	くま川鉄道 (くま川鉄道(株))	復旧費概算 約50億円 (負担なし)	2025年度中 に全線再開	JR人吉駅隣接の人吉温泉駅~湯前駅(24.8km)を結び球磨川沿いの路線。2021/11に比較的被害が軽微だった肥後西村~湯前間で運行を再開。一方、通学を中心に沿線で最も需要のある人吉温泉~肥後西村はバスによる代行輸送が続く。復旧にあたり大規模災害の特例支援措置を適用し国が97.5%、残りの2.5%分は県・人吉球磨地域の市町村がを事実負担し、同社の負担をゼロとした。流出した橋梁を架け換え、自治体などが施設や用地を保有して「鉄道の所有・管理と運行の主体を分ける“上下分離方式”の導入」で事業者の負担を軽くし運行再開へ。	
	JR肥薩線 (九州旅客鉄道(株))	復旧費概算 約235億円	—	県内全区間で不通続く。うち流失した球磨川の鉄橋2本に125億円、駅舎等その他に110億円。同社の災害復旧費としては2016年熊本地震時の約90億円を上回る過去最大。2022/6の国、県との3者による協議会で、復旧後に「上下分離方式」等の対策で同社負担額を最大9割減の25億円まで圧縮する見解が公表され、今後の進展が待たれる。	
中心市街地活性化	下通GATEプロジェクト ビル	非公表	2023年春	解体後のバルコ跡地に建設。地上11階建てで、(株)バルコ運営の商業施設(地下1~2階)と、(株)星野リゾート(県内初進出)運営のホテル「OMO 5 熊本by星野リゾート」(3~11階)の形態。熊本市の「新たな街のシンボル」となることを目指す。	
	JR熊本春日北ビル	非公表	2023年3月	熊本駅新幹線口(西口)の駅前広場に隣接する元駐車場の敷地1,690㎡に、同駅周辺で3棟目となるオフィスビルを建設。事業費は非公表、4/12着工済。鉄骨6階建て(延床面積5,168㎡)、1~2階を商業店舗やクリニック、3~6階オフィスとして賃貸(3,884㎡)。	
SDGs	「有明クリーンセンター」	52.5億	2023年9月 稼働	廃棄物リサイクルの(株)石崎商店(荒尾市)が廃棄物処理施設を新設。能力は1日当たり焼却90t(民間で県内最大)、破碎120t。日本コークス工業(株)の所有地3.25haを購入、総投資額のうち29億円を「サステナビリティ・リンク・ローン」(SLL)で調達(主幹事・肥後銀行)。	
住宅地開発	熊本都市計画事業嘉島東部 台地土地区画整理事業 :「ゆうすいの杜」	総事業費 約110億円	2022年度	嘉島町(井寺地区・北甘木地区)が2014年から開発を進めていた県下最大級のニュータウン。2022年春から第1期34区画の分譲を開始。開発面積約70.8ha、全900区画(住宅用地)、店舗・事務所用地も設置。同地は市街化区域で第二種中高層住居専用地域、第二種低層住居地域、第二種住居地域を設定。第1期販売分はハウスメーカー19社の注文住宅用地。	
	荒尾ウェルビーイング スマートシティ	土地区画 整理事業 総事業費 69.8億	2025年度	荒尾競馬場跡地である34.5haの土地に、スマートシティの実現を目指す。ICTを用いたセンシングによる健康増進や、再生可能エネルギーの域内活用、自治体Maasの導入など、住民が最先端のウェルビーイングを享受できる未来都市の創造を目指す。	
地域開発	合志市区画整理事業 (御代志地区) : 商業施設	総事業費 約39億 (他関連事業 費約14億)	2023年度末 開業	南栄開発(株)が2022年10月完成予定の熊本電鉄御代志駅駅舎南側の計1.75haに計4棟の商業施設を建設。延床面積約7,100㎡、2階建て・一部2階建て各1棟、平屋2棟。飲食店やクリニック、スーパー、100円ショップなどが入居予定。駐車場の収容台数は270台。	
	県営工業団地(2カ所)	総事業費 約70億	2022年度 事業着手 2025年度 分譲開始予定	県がTSMC進出に伴う関連取引企業の集積地となる大規模な工業団地を2カ所整備。整備面積は各25haで計50haを予定。熊本都市圏東部で国が整備計画の中九州横断道路の周辺を検討。	
	「第二原水工業団地」下水道 整備(菊陽町から受託)	約27億	2022年度予算	TSMCの子会社JASMの工場建設に伴う下水道整備。	

資料：国土交通省九州地方整備局、熊本県、県内各市町村のほか、各社のHP等の公表資料(2022/8時点)より当研究所作成